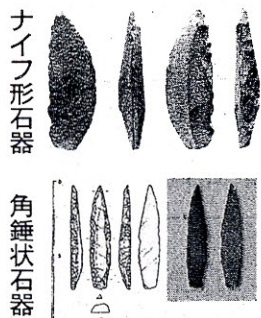


現代の私たちが先史時代のヒトの暮らしの様子などを知るためには、発掘調査などで見つかった、当時のヒトが使っていた道具を直接調べることが、もっとも有効な手段のひとつです。

狩猟の道具

今回はその中でも石器、特にいわゆる「狩猟具」と呼ばれる資料をご紹介します。



ナイフ形石器

角錐状石器

有舌尖頭器

数点が見つかっています。現代のナイフに似ているところからその名前がつけられていますが、実際には「刺突具」すなわち狩りをする際の「槍」の先に装着して用いていた、という見解が一般的です。

槍、弓、そして鏃へ

時代ですが、ナイフ形石器よりも少し新しい時期に使われていたのが角錐状石器です。県内では唯一、大津市関津遺跡で見つかっています。この石器も、先ほどのナイフ形石器と同様に、槍の素材の割れ方を活かし

の先に装着して用いられたと考えられています。その後、県内では明確に時期の分かる狩猟具は、続く縄文時代草創期より早期ころのものと考えられている有舌尖頭器まで見つかっていません。今からおおよそ1万6千年ぐらい前から使

て作られています。有舌尖頭器は全面に丁寧な調整を施して成形されています。石器の形に対する意識が大きく変わったのではないかと考えられています。この有舌尖頭器は、県内各地の丘陵地などを中心にして、少なくとも20例以上が見つかっています。さて、やがてこの有舌尖頭器と入れ替わるかのようになり、狩猟具の主流になるのが石鏃です。矢の先に装着して用いたものと考えられています。実はこの有舌尖頭器と石鏃の間には、それを支える背景に、大きな技術革新があったと言われ

ています。旧石器時代のナイフ形石器・角錐状石器を装着した槍は手に持って使う「突く槍」が中心であり、有舌尖頭器の段階になるとその槍は投槍具を用いた「投げ槍」に、そして、石鏃を装着した矢は「弓」によって一段と飛距離・命中精度を増した狩猟具へと技術的に進歩しました。この弓矢の使用開始は、土器の使用とともに縄文時代の大